

## 令和4年度 我が校の学ぶ力向上策

### 【市町 目標】

○笑顔輝く大津の教育を目指して ～子ども一人ひとりに焦点を当てて～

### 【学校 目標】

○つながり、学び合う ～全ての子どもの学びを保障する学校 一人一人を大切に～

### 【現状と課題】

- 視点1 本校児童の課題である「読み解く力」と「文章表現力」を向上させるために、教職員が「協働的な学び」を充実させる授業づくりを行うとともに、児童が日常的に文章要約したり作文したりする機会を設定する必要がある。
- 視点2 例年低い傾向にある児童の自尊感情を高めるために、一人ひとりの児童の基礎学力の定着を図るとともに、コミュニティ・スクールとして地域社会との関わりを重視した学習活動を充実させる必要がある。
- 視点3 学級担任8名の内、5名が経験7年未満の若手教員であることから、教職員の指導力の向上を図る必要がある。

### 取組事項および評価指標

※評価:【達成状況 90%以上→A 70%以上90%未満→B 70%未満→C 時期→1回目:9月 2回目:2月】

#### 【視点1】学びを実感できる授業づくり

取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
○校内研究のテーマを「主体的・対話的で深い学びの授業の創造」とし、「協働的な学び」の充実を図る。 ○児童が自分の考えを表現したい、友だちの考えを聞きたい意欲を持てる授業をつくる。 ○毎週、中・高学年で新聞記事の要約に取り組む、低学年でミニ作文に取り組む。	・「学びの基礎チャレンジ」の国語科「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3項目全てで、県内平均を上回る。	未	
	・校内児童アンケート「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」に対する肯定的な回答の割合が90%以上	B	
	・校内児童アンケート「文章を読んで、中心となる大切な言葉や文を見つけたり、短い文にまとめたりすることができていますか」に対する肯定的な回答の割合が90%以上	B	

#### 【視点2】学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり

取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
○総合的な学習の時間や図画工作科の学習や、クラブ活動等で、豊かな自然環境と関わったり、地域の方をゲストティーチャーとして招いて交流したりする学習活動を積極的に行う。 ○異学年交流や道徳科の学習を通して、セルフエスティームを育てるとともに、各教科の学習で自分の成長を感じ取れるような活動とふり返りを行う。	・校内児童アンケート「授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか」に対する肯定的な回答の割合が90%以上	B	
	・校内児童アンケート「他の学年との交流するときは、みんなと協力して楽しく活動できていますか」に対する肯定的な回答の割合が90%以上	A	
	・校内児童アンケート「自分にはよいところがあると思いますか」に対する肯定的な回答の割合が90%以上	B	

#### 【視点3】子どものために一丸となって取り組む学校づくり

取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
○授業公開の回数を増やし、教材研究の場、教員同士の意見交流から授業力の底上げをねらう。 ○教員同士で得意教科等を教え合う校内ミニ研修会を実施する。(月1回)	・校内教職員アンケート「授業公開は、あなたの授業力向上に役立っていると思いますか」に対する肯定的な回答の割合が90%以上	A	
	・校内教職員アンケート「校内ミニ研修会は、あなたの授業力向上に役立っていると思いますか」に対する肯定的な回答の割合が90%以上	A	

【「学ぶ力向上策」の実効性を高めるための職員全体での共通理解の図り方。取組の検証・改善法と、その時期や手立て等】  
 ・校内研究のテーマ「主体的・対話的で深い学びの授業の創造」については、5月初旬の校内研究全体会で具体的な取組内容を提示し、職員全体で共通理解を図り、6月中旬より授業公開および研究協議会をスタートさせる。協議会では、公開した授業について教師の手立てが適切であったか検証するとともに、改善点について話し合う。各学級が授業公開を実施(年間計7回)するうち3回に、愛知文教大学より講師を招聘し、「協働的な学び」について指導助言をいただくことで、教職員の授業力向上を図っていく。(年間3回招聘)  
 ・「中・高学年での新聞記事の要約や低学年でのミニ作文」は、5月初旬の校内研究全体会で取組内容を提示し、年間を通して全校的に取り組んでいく。

#### 今年度の取組の成果と課題

--